

(2) パシフィックコンサルタンツ株式会社 (技術サービス業)

長時間労働になっていた原因

当社は、公共事業に関わる企画・計画・調査・設計等を主たる業務としており、お客様の多くが中央省庁や地方自治体のため、決算時期である1～3月に納期が集中し、その時期に長時間労働となることが以前から課題となっていました。

過重労働対策に取り組んだきっかけ

■「時間当たりの生産性」に着目

長時間労働の削減のため、従来から管理中心的な手法で取り組んでいましたが、大きな効果は見られませんでした。ちょうどワークライフバランスという言葉が話題になり始めた時期で、労働組合からも講演会を行って欲しいと提案があったため、外部から講師を招き、労使共催で講演会を行いました。「良い成果を出すためには時間がかかる」ということがそれまでの社内の共通認識でしたが、外部講師から「時間当たりの生産性」という言葉があり、「限られた時間の中で成果を上げること」の重要性に改めて気づきました。

長時間労働の削減は経営として最優先課題のひとつであり、「限られた時間の中で成果を上げることが重要である」との観点でプロジェクトに取り組みました。

取組と効果

■「仕事」「自分・家族」「健康」のための24時間

こうした経緯を踏まえて、2010年5月から「WLB（ワークライフバランス）888（トリプルエイト）プロジェクト」を開始しました。プロジェクト名の「888」とは、1日は24時間であり、仕事のための8時間、自分と家族と地域のための8時間、健康のための8時間という要素から成り立っていることを示したものです。この時間配分が理想的というわけではなく、今の自分がどのような時間の使い方をしているのかを振り返り、これからの自分の人生を考えるきっかけにして欲しい、という思いがありました。

まずはパイロットプロジェクトとして、外部のコンサルタントを入れて、グループ単位で働き方の見直し改善に取り組みました。進捗状況の報告と成果報告は、定期的に社内に広報しました。

【具体的な取組】

- ①長時間残業削減：長時間労働削減のための施策を実施している組織を社内で公募し、優れた事例を表彰。賞金あり。
- ②ノー残業デーの実施：従来から設定されていた毎週水曜日のノー残業デーをより強化して実施。夏は週2日設定。
- ③ファミリーデーの実施：従業員の家族を職場に招待して、仕事への理解を深めていただき、職場の方々との交流を図る。
- ④スタンディング会議、テレビ会議等の実施：会議を効率的に、意欲的に行うためスタンディングで会議や打合せを実施。またテレビ会議により支社間の移動を減らし、業務時間を確保しつつも、顔の見えるコミュニケーションで意思疎通の円滑化を図った。

これらの取組等による働き方や意識の改革、繁忙期の業務集中を避けるために常に最終形をイメージした資料作り、進捗確認をこまめに行い、早めに対策を打つ等により、長時間労働の削減につながっています。

■社員が「自ら考える改善」を重視

働き方の見直し・改善については、会社の風土等を踏まえ、上から押し付ける形ではなく、自ら考えて取り組む方式とすることにより、社員の自主的な活動を促しました。各グループでの取組については進捗を管理し、「完成高/総労働時間」指数で成果を可視化して、社内表彰等に活用しています。社長は年始の挨拶、研修の冒頭挨拶等の機会では、毎回、時間当たりの生産性の向上や限られた時間で成果を出すことの重要性を強調しています。また、ノー残業デーのポスターに社長や本部長の写真を掲載する等、会社として重要な取組であることを示しています。管理職には、長時間労働のリスクやタイムマネジメントの重要性等について研修を行っています。

長時間労働の削減効果

【取組当初：2010年】平均月残業時間 49.5時間 → 【2015年】45.3時間

東日本大震災の復旧・復興関連事業で受注が増えたにもかかわらず、従業員の残業時間はマイナスとなっています。業務改善の取組により、残業時間は年々減少傾向にあり、売上を落とさずに生産性を向上させることができています。

会社概要

社名	パシフィックコンサルタンツ株式会社
代表者	高木 茂知
本社所在地	東京都千代田区神田錦町3-22
創立	1951年9月4日
資本金	490,000 (千円)
従業員数	1,677名

事業内容	建設コンサルタント
支社	9支社
ホームページ	https://www.pacific.co.jp

Pacific
Consultants

Building
The Future